

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む
(1) ICT を効果的に活用した、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践
(2) 探究を軸とした学びへのスタイル改革の推進
(3) 教科横断的な教育課程によるシティズンシップ教育の充実
(4) 様々な研修や留学生の受け入れによるダイバーシティ教育の充実

各学校で定める目標と育成する資質・能力

以下の具体的な資質・能力の達成に向けて、探究を軸とした創造的な学びを実現する。
(1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力、及び情報モラルを含む情報活用能力
(2) 予測困難な現実社会に目を向け、他者と協働しながら諸課題の解決に主体的に学び続ける資質・能力
(3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる資質・能力

総合的な探究の時間の学習評価

(1) 中高6年間を貫く探究的な学びのグランドデザインを基に、発達段階に応じた到達目標に基づく自己評価、及び生徒間の他者評価、教員からの評価を行う。
(2) クラッシーのポートフォリオ機能やGoogleフォームなどを使って、生徒が振り返りを作成・蓄積し、自己評価や取り組みへの改善に生かせるようにする。
(3) 指導・評価に携わる教員を中心に、週に1度の年次会や探究推進部会で、探究の取り組みや指導上の課題などについて情報を共有する。
(4) 各種探究コンテストへの応募を積極的に促し、生徒の探究活動が校内だけでなく、外部から客観的に評価されるようにする。
(3) 外部団体で構成される探究推進協議会の委員に、探究計画を提示し、活動・成果報告を行って、外部からの助言・評価も取り入れる。

生徒の実態

・中高合同発表会の公開実施や成果の外部発信などが刺激となり、意欲的に探究に取り組む生徒が増えている。附属中からの内進生には、中高合同の探究活動や行事の経験を積んできた生徒も多く、高校でも自信をもって活動できている。
・主体的に新しい活動に取り組める生徒が増えている一方、自己理解の不十分さや自信不足から、挑戦や失敗を恐れてしまう生徒もいる。
・進路意識に差があり、授業や課外活動に積極的に取り組む者が多い中で、目標が定まらず継続的に努力する習慣がついていない生徒も見られる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

・協働が必要な活動に参加する場合、班員の人選に配慮したり、活動の様子を注意して観察したりすることで、大きなトラブルが起きないように対応する。
・個別に声かけを行い、無理のないようサポートする。
・多様な価値観や個人の得意・不得意を考慮して活動するよう指導する。

目指す生徒の姿

(1) 自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力、及び情報モラルを含む情報活用能力を身に付けた生徒
(2) 予測困難な現実社会に目を向け、他者と協働しながら諸課題の解決に主体的に学び続ける生徒
(3) 多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現できる生徒

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

1年次 探究課題:課題発見力、コミュニケーション力、協働性の育成
(1) 知識および技能
・探究ガイダンス ・AI チャレンジ ・大学生による探究ゼミ ・青龍アラカルト*
(2) 思考力、判断力、表現力
・協働探究活動 ・地域探究 ・中高合同探究活動および発表会
(3) 学びに向かう力、人間性等
・ライフスキルワークショップ 卒業生や大学教授による各種講話
2年次 探究課題:課題解決に向かう力、論理的なコミュニケーション力、社会貢献意識の育成
(1) 知識および技能
・AI チャレンジ ・大学生による探究ゼミ ・青龍アラカルト
(2) 思考力、判断力、表現力
・協働探究活動 ・地域探究 ・中高合同探究活動および発表会
(3) 学びに向かう力、人間性等
・修学旅行でのフィールドワーク 卒業生や大学教授による各種講話
3年次 探究課題:課題解決(改善)力、効果的なコミュニケーション力、情報活用力、社会に貢献する力の基礎を育成
(1) 知識および技能
・AI チャレンジ ・青龍アラカルト
(2) 思考力、判断力、表現力
・思考力・判断力・表現力診断テスト ・個別探究活動
・3年間のポートフォリオ作成
(3) 学びに向かう力、人間性等
・進路探究ゼミ ・卒業生による進路講話

学習活動、指導方法等

1年次 探究課題:コミュニケーション力、課題発見力、協働性の育成
(1) 探究ガイダンスを行い、身近な課題に気づく力を高める。AI チャレンジでは、AI・ICTを活用して課題を解決するアイデアを考える。大学生による探究ゼミでは、大学生とのやりとりを通じて、コミュニケーション力を高め、他者の視点を取り入れて探究をブラッシュアップする。過去の中高合同発表会のポスターや、ドリームパス入賞チームの発表動画を使って、探究活動のイメージを具体化してサポートする。
(2) 協働探究活動を段階的に実施する。地域探究については、地域の課題について考え、解決に取り組む機会を作る。
(3) ライフスキルワークショップを通じて、協働性を育成する。
2年次 探究課題:論理的なコミュニケーション力、課題解決に向かう力、社会貢献意識の育成
(1) AI チャレンジではAI・ICTを活用しSTREAM チャレンジ*へのエントリーを目指す。大学生による探究ゼミについては、1年次と同様とする。
(2) 昨年度の探究活動を発展させ、協働探究活動を実施する。地域課題についてのアイデアを共有し、地域貢献への意識を高める。中高合同探究発表会では、全員がポスターセッションを行う。
(3) 沖縄修学旅行について、探究的な視点をもって参加するよう指導する。
3年次 探究課題:課題解決(改善)力、効果的なコミュニケーション力、情報活用力、社会に貢献する力の基礎を育成
(1) 個々の興味・関心・進路に応じてAI チャレンジの活用を促す。
(2) 思考力・判断力・表現力診断テストを実施し、自己の力を客観的に把握させる。3年間のポートフォリオを作成し、学びの集大成とさせる。
(3) 進路探究ゼミでは、進路に合わせた探究的な学びを計画・深化させる。
・STREAM チャレンジは、ソフトバンク主催のAI 活用アイデアコンテストです。
・青龍アラカルトは、全年次対象の探究的視点を取り入れた課外授業で、生徒が主体的に選んで参加するものです。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

・探究推進部 (ICT 推進チーム・図書室担当を含む)
・探究推進協議会 (大学教授など外部委員で構成)
・探究委員会 (生徒の委員会)
・年次担当教員 (探究ファシリテーター1名を含む)
・他分掌 (キャリアサポート部・ICT 推進部・特別活動部等)
・教科・科目担当
・附属中学校
・ソフトバンク社会貢献プログラム (AI チャレンジ)
・太田一高同窓会
・茨城大学教育学部、全学教職センター、学生サークルとの連携
・地域連携、企業連携、海外の学校との交流

・探究推進部を中心に、年次、他分掌や他団体と連携をとって指導を企画する。
・探究推進協議会に協力を依頼し、地域連携、企業連携、高大連携を推進する。
・探究推進協議会からの助言・評価を取り入れて、持続可能な探究活動を企画・実施する。
・生徒の探究委員会とともに、探究が行いやすい環境、主体的な探究発表会の運営を目指す。
・常陸太田市など関係機関に広報の協力を依頼し、中高合同探究発表会を一般公開して実施する。
・DX ハイスクールとして、プログラミング講座などを地域の企業やソフトバンクと連携して行う。
・茨城大学の教員志望学生サークルと連携し「大学生による探究ゼミ」を発展的に実施する。
・チャレンジプロジェクト教員養成特別枠として高大連携し、ワークショップなどを企画する。
・探究活動発表を通じた台湾の高校との英語での交流など、教科横断的な活動を奨励する。